

令和2年度第1回 熊本市地域包括支援センター運営協議会会議要旨

- 1 日時 令和2年9月25日(月) 18時から
- 2 場所 本庁舎14階大ホール
- 3 出席委員 東和子、石川光男、石橋敏郎、岩下秀幸、大道友美、川口辰彦、小山登代子、田口慶治、田中弥興、本庄弘次、松川あゆみ、柳田裕子(敬称略)
- 4 議事 (1) 地域包括支援センターの所在地等の変更について
(2) 地域包括支援センターの運営状況及び評価について
(3) その他
 - ・(報告) 令和2年度 地域包括支援センターの重点的取組
 - ・(報告) 地域包括支援センターの新型コロナウイルス感染症への対応状況

5 議事録等(要旨)

議事

<地域包括支援センター所在地等の変更・地域包括支援センターの運営状況について事務局より報告>

○会長

今回は、去年の包括の活動の報告であり、今年は随分去年とは様子が違う。来年この会議で報告して議論していただく場合は、今年のような点数の評価をそのまま当てはめることができないので、次回は皆さん方からの意見もたくさん頂きたいと思っている。

○委員

評価はとても大事なことだと思うが、評価は数での評価になってしまう。先ほどの相談の状況を聞くと、後期高齢者の虐待の相談が圧倒的に増えてきている。これにちゃんと有効に対応できているかどうか。あるいは情報共有して他の所でも同じような対策を考えるようなマニュアル化の検討はなされているのか。

あと一点は西の方で同一法人紹介率が高いところに関しては今後何か具体的な対策があるのか。

○事務局

虐待に関して、現在マニュアルの作成を行っている。また、区役所でも虐待に対しては地域包括支援センターのバックアップをしており、意見交換を加えて作っている状況。次の機会にでもお示しできればと思っている。

次に金峰の方は、実情として難しいというところ。我々としても、地域の中でのデイサー

ビスのような取り組みに対して支援している。そういった地域の中での通いの場を作りながら、そちらの方への活用という形で少しずつでも割合が低くなるような形で取り組んでいきたい。

○委員

虐待の問題は非常に難しいと思う。虐待とってない虐待や、あるいは結果的に虐待になっていたということも多いにあること。マニュアル化は多岐にわたって検討していただければありがたい。

○会長

今年はコロナ禍で虐待がもっと相談が増えているのではないかと心配している。来年は、どんな相談があったか例示してくれると少し議論しやすい。軽いものと重い相談まであると思うが、来年工夫してください。

○委員

高齢者の見守り事業について、評価点が少し低い。民生委員とか地域のみなさんとの情報の共有・連携といった活動がどの程度積極的になされているのか。

また、生活支援コーディネーターの業務で、サービスのマッチングのところも少し低い。生活支援等をしようとする人に対する、ネットワークや知識といったものをどの程度研修や連携をとっているのか。

○事務局

民生委員さんとの見守り事業について、評価が低くなったのは、昨年度末から新型コロナの影響が出てしまったこと。2月に新規感染者が発見され3月から活動を止めたというところがある。実際目標に向かってささえりあの方で回れる件数を毎年度定めているが、回れなかった月が一月ちょっとあったため、全体的に下がってしまった。

もう1点の生活支援コーディネーターについて、地域の方々のやる気等を結びつけながら、地域の中でのサービスを作っていく難しい業務なので、研修等をやっていきたいと考えている。毎年県及び県の社協等が研修会を行っているが、今年度はないと先日決まったので、急遽、来月頭に熊本市の方で独自に小さいながらも研修会を行い、レベルアップを図りたいと考えている。今後も生活支援コーディネーターは重要な職務なので、レベルアップを目指して支援していきたいと考えている。

○委員

民生委員にとって包括支援センターは、活動上の心の拠り所であり、包括支援センターができたことにより活動内容そのものは以前に比べて大変充実してものになった。見守りに

ついて、今年度はささえりあとの名簿の照らし合わせがコロナの関係で今現在できていない。名簿の配布もこれからであり、今度それぞれの民児協においては名簿の照らし合わせと個別訪問をしていくはず。

今後の高齢者の方たちの生活を考えると、生活支援コーディネーターの存在はとても大きい。今現在、生活支援コーディネーターが十分活動しているか少し疑問を感じる。今後も研修を受けるということなので、それは是非お願いしたい。今後の介護保険のことを考えると、地域で住民同士が支えあうような形を取らざるを得ない状態になった時に、それをコーディネートするのは、生活支援コーディネーターの方の存在が大きい。今後取り組みとして高校生や大学生といった方たちもボランティアとして活用するのもいいと思う。できたらこういった若い方たちにも介護サポーターのポイント制度を当てはめることができないのか考えてほしい。

○事務局

介護保険サポーターは、現在 65 才以上に限定されており、若い方たちには対象になっていないが、昨年度から、研修を受けて介護予防サポーターになったら、地域活動の際にポイントをつけるという制度を設けている。ポイントの制度については、いろいろ検討の余地があると思うので、いただいたご意見を踏まえてさらに検討したい。

報告

<令和 2 年度 地域包括支援センターの重点的取組・地域包括支援センターの新型コロナウイルス感染症への対応状況について事務局より説明>

質疑応答

○委員

現場の状況として、今一番困っているのは、担当者会議や退院前カンファレンスが開けないということ。病院にも入れないあるいは病院に来るのも怖いというケアマネジャーもいる。正しく怖がって正しく対応するという知識がない問題が大きいので、介護に関わる人たちに対する正しい知識の教育を行政からやってほしい。

また、コロナの問題は今回レベルが下がったと言っても第三波が来ればまた状況悪化すると思う。今後永続的になった場合に会議を WEB の形に変えるということも含めて少し形を変えたことを検討するのも必要。予算的に難しい問題もあるかもしれないが、今後そういう検討が可能なのか。

○事務局

ケアマネも含めても介護従業者等に対する正しい知識の教育や周知は私どものほうでも通知等を送っているが、読む時間もなかなかないと思うので、引き続き機会をとらえて周知

等を勤めてきたい。

もう一点は今後の介護をどのような形で進めていくかという話だと思うが、介護サービスは生活に必要ということで、緊急事態宣言とかがあっても国としても継続お願いしている状況である。私どもも消耗品とか消毒関係が増えたかかき増し経費の補助とかにも対応しており、それ以外にもできることがあればと考えている。具体的どうということはないが、国の方からどういった視点で、どういったことに気を付けて介護サービスを提供していこうという情報も出ているので、改めて周知し、引き続き介護サービスが提供できるように努めていきたい。

○委員

恐らくこれからコロナの数が増えてきた場合、国は在宅でコロナを診る考えだろう。そうすると在宅に行く介護職員達の安全確保はどうなのかということも議論しておくべきだと思う。こういう場しかそういうところはないので、そういった検討の場を与えてほしい。

○委員

今回の台風について、相当緊張感を持ってみんな備えていたと思う。被害等もあまりなくて済んだが、もし浸かったらどこに避難したら良いのか。学校とか地震災害とかそういう時の避難体制が出ているのですが、コロナの問題がある。これについて、頼りになるのはやはり包括であり、その時出ていかざるを得ないのかなと。今後の感染が広がってきた場合の避難体制や対策は市の方では今後検討されているのか。

○事務局

今回の台風については、事前にある程度来ることが分かっており、避難体制についてもある程度早くから地域の皆さん方準備ができ、学校等に避難を行った。学校でも、体育館の中だけに避難すると密集等が出るが、教室も開放し、分散して避難を行った。そういった体制でコロナ対応を行った。今後も同じような形で対応していけるのではと考えている。

ただ、地震等は突発的に起こるものなので、そういう時の体勢は別途あるが、ある程度台風等の天候、雨あたりの対応については、今回の対応とまた同じような対応をとって事前にできることをやっていくことになるかと思う。また皆様方の意見も参考にさせて頂いていきたいと思っている。

○会長

介護保険事業計画は今年改定となる。厚生労働省から介護保険事業計画にコロナ対策と球磨村の特別養護老人ホームで悲惨なことになったので、災害対策を盛り込むようにという通知が来ているはず。今まで介護保険で災害を盛り込むことなかった。コロナによって在宅サービスができないが、その人にとっては命に関わるかもしれない。施設に入ってもああ

ということが起きると、介護保険としても関心を持たざるを得ない。どういう形で盛り込まれるか注目している。コロナ禍で福祉医療サービスをどうするかが一番の関心となる。コロナといっても電話で済ませることができない時がある。高齢者に会って話を聞いたり表情とか色々ある。そういうこと注意しながらサービスが維持できるように工夫を盛り込んでもらいたい。

来年のこの会議は相当苦勞するだろう。それに避難計画も、個別的な避難計画を包括にやってもらうという話で包括の人も忙しいのではと心配する。来年は厳しい議論をしなければいけない。

○事務局

台風というのは事前に準備ができるとは言いつつも、今回の台風は規模の桁が違うため、相当アナウンスがされた。あれだけあると、多くの方はそれぞれ対応を考え、その中で避難される方、ご自宅に居られる方、いろいろな判断をされたのだらうと思う。そういった中でやはりコロナ対策ということで、密にならないような避難所の運営を市の方も心掛けてやってきたところ。そういったことが今後現実として起こってくると思うので、そこはきちんと計画にどう盛り込むのか、我々の中でどう対処していくかというのも常日頃考えて言う必要があると思う。

避難の問題についても、今回災害時要援護者名簿を準備しており、その方々をどうするかというようなプランも作るような構想もあるが、なかなか上手く回っていない部分もある。この辺りを推し進めながら誰がどういった形で避難すべき人をきちんと避難させていくのかを皆さんと話をしながら、その主体が誰なのかを検討していくことが必要と思っている。

○会長

毎回包括は少ない人数で大変な仕事をしているので、大変皆さんご苦勞様ですと言うしれない。その上にコロナが重なってどうされているのかという気持ちがある。それはもう来年聞くが、大変ご苦勞されていると思うので、行政も助けてあげてください。

できれば今日は1時間ちょっとで終わりたいと思っていたが、初めての方は分からないところもいっぱいあると思う。ぜひ行政の方に個別に質問や、電話をして聞いてくださいね。また来年もあるのでその時に聞かれても結構です。

○委員

重点的に取り組みの中の部分で一番にあげてある地域ケア会議に関して、件数が上がっていくということを非常に良いことだと思う。以前地域で地域ケア会議に提出してケアマネジャーさんいかがだったでしょうかというアンケートを取ったことがある。その中でいろんな職種の方から意見聞けて良かったっていう意見がたくさんあったが、その反面ケア

マネジャーがそこに提出して集中砲火を浴び、地域ケア会議に事例を提出するのはよそうという意見も聞かれた。そうなるとケアマネジャーとしても知識を高めるとかアセスメントを深めるといふところの問題とは違うところになり、疲弊してしまうと思う。この中で大事なのは司会者である包括支援センターの方のコーディネートになってくる。包括の方も勉強していると思うが、これはずっと継続的にまた勉強してもらい良い地域ケア会議が出来ればと思う。

○会長

ケアマネさんは苦勞が多いからなり手が無いことは知っているだろう。そういう人を責めるとは何事かと言いたいが、みんな苦勞しているから、実のあるケア会議にするように指導してください。

○会長

一応全体を含めて議題は全て承認ということでもいいですか。今日は特別な事情で短い時間でしたので、質問のされたい方は事務局へ電話等されてください。

○事務局

次回の「第2回 熊本市地域包括支援センター運営協議会」は、来年の3月頃を予定している。コロナ禍の状況を踏まえ、開催につきましては改めて年明けに状況を見ながらご案内したい。

閉会